



担当 保健福祉課

令和2年4月1日から「健康増進法」が改正され、受動喫煙の防止が強化されました。

◆受動喫煙とは

他人の喫煙により、たばこから発生した煙にさらされることです。たばこの先端から出る副流煙を吸い込むことで発生します。



◆受動喫煙の影響

副流煙には、主流煙（たばこを吸う本人が吸い込む煙）よりも何倍も多くの有害物質が含まれます。

副流煙に含まれる有害物質の倍率(主流煙比)	有害物質(体への影響)
2.8倍	ニコチン(血圧を上昇させる)
4.7倍	一酸化炭素(酸素を運ぶのを妨げ心臓に負担をかける)
3.4倍	タール(発がん物質を多く含む)

◆受動喫煙がもたらす健康被害

受動喫煙により、さまざまな病気を発症するリスクが高まります。

【受動喫煙により引き起こされる病気】

肺がん
虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症)
脳卒中
乳幼児突然死症候群(元気だった乳幼児が事故や窒息ではなく、睡眠中に突然死してしまう病気)
子どもの喘息

日本では、受動喫煙が原因で年間約1万5千人が死亡していると推計されています。特に、子ども・妊婦・高齢者は受動喫煙の影響を受けやすいため、配慮が必要です。

◆加熱式たばこ

加熱式たばこの中には煙が見えにくいものもありますが、その副流煙にも有害物質が含まれており、その影響は明らかになっていません。

◆三次喫煙

たばこを吸った人が吐き出す息や衣服、部屋の壁紙、カーテンなどに付着した有害物質を吸い込むことにより起こる三次喫煙も問題になっています。

◆受動喫煙を防止するために

空気清浄機の利用や換気扇の下での喫煙では、受動喫煙を防ぐことはできません。受動喫煙をなくすためには、たばこを吸っている人が禁煙することが最善の選択です。自分の健康のため、家族や身近な人の健康を守るためにも、禁煙に取り組みしましょう。

アライグマ通信



▼収穫期に向けたアライグマ対策

秋になると多くの作物が収穫・結実期を迎えます。アライグマにとっては、箱わなに仕掛けられた餌よりも周りに実った作物の方が魅力的で安全であるため、春に比べて捕獲が難しくなります。

アライグマの好む食べ物は季節によって異なり、春にはタンパク源となる動物質を、秋にはエネルギー源となる果実や脂肪分の多い植物質を選んで食べる傾向があります。

「前に仕掛けていた餌で捕まらなくなった」といった場合は、餌を変えてみることで捕獲につながる可能性があります。

▼農作物被害を防ぐために

アライグマや他の動物による農作物被害を防ぐため、電柵を設置することも効果的です。

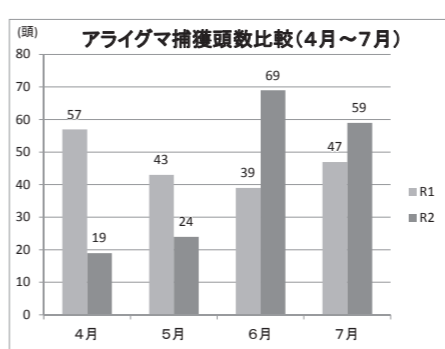
防獣ネットなどで作物を囲う場合は、キツネやタヌキな



電柵が設置されたとうもろこし畑

▼令和2年度アライグマ捕獲状況

7月末現在で17頭(前年同期比▲15頭)が捕獲。



問合せ 産業振興課農林畜産G ☎76・2134

地域おこし協力隊 活動報告 No.53



「無沙汰しております。産休・育休から復帰しました三師です。協力隊の任期も3年目となり、早いもので残すところ半年となりました。そんな3年間の協力隊の活動を振り返ってみたいと思います。

まずはメインである酒米粉の研究についてです。協力隊になってから、これまで酒米粉の活用実験をしてきました。2年目には農研機構との共同開発で、酒米粉の甘味料を作



りました。酒米粉と米麴など全て新十津川産の物でできた甘味料は、お米の香りがする優しい味で、今後振興公社から発売の予定もあります。

また、酒米粉の甘味料には製パン改良剤としての効果もあり、学校給食で使用していただいたこともありました。昨年には、セイコーマートから新十津川の甘味料を使用した菓子パンの発売もありました。今後、甘味料や製パン改良剤としての活用の幅を広げていけたらいいなと思い、活動に励んでいます。

ほかにも、酒米粉を使用した「米ねんど」で、イベントや花月サポートセンターのお祭りで子どもたちと一緒にねんど作りを楽しみました。「米ねんど」は粉から自分たちでねんどを作る新しいタイプのねんど遊びで、小さい子どもが口に入れても安全なように全て食べ物を使用しています。現在では、おもちゃと

かし「デコレーション」を楽しんでいたり、味覚まつりのベンチャーキッズや子育て支援センターのお母さんたち向けに教室を開催したりしました。キラキラにする作業に苦戦しながらも、小さなラインストーンを使ったそれぞれの好みの作品のデザインを楽しんでいただけました。



地域おこし協力隊 三師 優美

